

生徒が自ら学びに向かう社会科の授業づくり

—個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して—

古座川町立明神中学校
教諭 仲本 裕一

【要旨】 生徒が自ら学びに向かう姿の実現に向けて、知識及び技能を習得する授業と課題探究の授業を組み合わせた単元計画による授業づくりを行った。生徒が学習進度に応じた学びができるようワークシートの工夫や、ICT活用など環境の整備を行い、生徒が十分に知識及び技能を習得できるよう「指導の個別化」の充実を図った。また、ICTを活用し、クラスメイトと協働しながら探究したり、生徒が学習を調整しながら個別に探究したりする課題を提供した。これらの学習を計画的に組み合わせることで、生徒が自ら学びに向かう姿が見られた。

【キーワード】 個別最適な学び、協働的な学び、知識及び技能、課題探究、単元計画、指導の個別化、学習の個性化

1 研究のねらい

中央教育審議会（2021）は「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（以下、「答申」と略記）の中で、「2020年代を通じて実現を目指す学校教育を『令和の日本型学校教育』とし、その姿を『全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び』（※1）としている。そして、「ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、『個に応じた指導』を学習者視点から整理した概念である『個別最適な学び』と、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、『協働的な学び』とを一体的に充実することを目指している。」（※1）と述べている。

所属校は全校生徒が10人ほどの小規模校である。自身のこれまでの授業を振り返ると、講義型で進めることが多かった。答申では、協働的な学びを探究的な学習を通じて充実させることの重要性についても述べられているが、自身の授業ではグループ活動を行う際も、発問に対して生徒が考えを深めたり、探究したりする学習機会を提供することが少なかった。ICTの活用についても、Googleのホワイトボードツールを学期に2～3回使用するにとどまり、所属校に整備されている電子黒板や一人一台端末を十分に活用することができていなかった。

以上の省察と文部科学省が推進する教育施策を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善に取り組み、生徒が自ら学びに向かう社会科の授業の実現に向け、本研究テーマを設定した。

2 研究内容

（1）研究内容について

答申では、個別最適な学びをこども自身が進めていくためには、「指導の個別化」と「学習の個性化」の手立てを充実させることが述べられている。「指導の個別化」については、「教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなど」（※2）と示されている。「学習の個性化」については、「幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するこ

とで、子供自身が学習が最適となるよう調整する」(※2)と示されており、これらの手立てを充実させることが必要である。

「協働的な学び」については、「探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する」(※3)と示されており、社会科では1つの方法として、クラスメイトと協働して課題探究に取り組む学習で充実を目指すことなどが考えられる。

また、「各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要」(※4)と述べられている。これについて奈須(2023)は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための視点として、「学習過程上で経時的に組み合わせる」方法と「カリキュラム上で共時的にバランス良く配置する」という2つの在り方を述べている。

奈須は前者の例として、大正期に奈良女子高等師範学校附属小学校(現奈良女子大学附属小学校)で考案された「奈良の学習法」を挙げている。これは、「独自学習」と呼ばれる個人での学習を十分行った上で、クラスメイトとの意見や考えの聞き合いなど、グループでの「相互学習」を行い、自分では気付いていなかったことなどに気づき、さらに個人による学びを充実させることができる学習方法である。この考え方を自身の単元計画に取り入れ、個別学習主体の授業で知識及び技能の習得を行い、習得した知識及び技能を活用して課題をクラスメイトと協働して探究したり、個別に探究したりする授業を行う。そうすることで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、生徒が自ら学びに向かう社会科の授業の実現につなげる。そして、単元末では、それまでの学習で培った資質・能力を、少人数学級の特徴を生かしながら更に高めていく取組をしていく。

また、後者の例として、愛知県東浦町立緒川小学校のカリキュラムを挙げている。これは、「はげみ学習」(学習到達度等に応じた補充学習)、「週間プログラム」(単元内自由進度学習)、「オープン・タイム」(個人が興味・関心に基づき自由に学習内容を設定して探究する学習)など多様な学びの機会をバランスよくカリキュラムに配置して実施していく取組である。多様な授業形態を取り入れることで、特性に応じた多様な学習法を生徒に提供することができ、生徒が自分に合った学習スタイルを把握することにもつながる。緒川小学校の取組は学校全体のカリキュラムで取り組まれている。多様な学び方を生徒に提供する視点は、今後自身の単元計画においても参考にしたい。

(2) 単元計画の作成に当たって

このような授業実践の実現に向け、自身が実施する授業では、次の3点に留意して授業づくりを行う。

1点目は、「個別最適な学び」の充実である。知識及び技能を習得する学習や補充的な学習、個別に探究する学習に対して、生徒がそれぞれの関心やペースに応じて個別に取り組めるワークシートを準備する。

知識及び技能の習得に関しては、生徒の知識及び技能の習得状況を把握するために小テスト実施する。学習進度に応じて生徒が補充的な学習に取り組めるよう環境整備を行い、知識及び技能を確実に習得できるようにし、「指導の個別化」の充実を図る。

また、探究する際も、生徒が興味や関心に応じてICTを活用して動画視聴や情報収集ができる環境整備を行い、資料を基に、設定した課題について探究できるようにする「学習の個性化」の充実を図る。

2点目は、「協働的な学び」の充実である。習得した知識や技能を活用して、クラスメイトと共に答えがない問いや考え方が複数あるような課題に取り組む。具体的には、学習過程上で知識及び技能の習得と課題探究の学習を経時的に組み合わせる。前時で習得した知識及び技能を活用して資料を読み、動画を見て、まず生徒が個々に考えをもち、クラスメ

イトの意見を参考にしながら、さらに学びを深める「個別学習→グループ学習→個別学習」の学習を行うことで、探究的な学びを通じた「協働的な学び」の充実につなげる。

3点目は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す見通しをもった単元計画の作成である(表1)(表2)(表3)。これまで述べたように、単元計画を通して、知識及び技能の習得を目指す授業と協働しながら課題を探究する授業を計画的に実施し、多様な学び方を生徒に提供する。また、単元末には単元の学習内容について振り返り、単元を通じた問いについて考えるなど、単元のまとめを行う。個別最適な学びと協働的な学びを通じて高めた資質・能力を活用し、少人数学級の特徴を生かして単元の学習内容を生徒自身が整理する。

(3) 単元計画について

内容のまとめりと題材：

「地理的分野 B世界の様々な地域(2)世界の諸地域④北アメリカ」(帝国書院)

表1 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国が世界に与えている影響や多民族国家としての課題は、北アメリカ州の地域的特色の影響を受けていることを理解している。 北アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、北アメリカ州の地域的特色を大観し理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の多民族国家としての課題や持続可能な社会を巡る課題の要因や影響を州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 北アメリカ州について、ここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
学習活動における具体の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①北アメリカ州の地形や気候、アメリカ合衆国の移民の歴史や民族構成について理解している。 ②アメリカ合衆国の農業と工業について理解している。 ③アメリカ合衆国の文化、経済と環境問題の関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①アメリカ合衆国の移民に対する考えを通じて、アメリカ合衆国に不法入国する移民の受け入れについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ②アメリカ合衆国のパリ協定に対する政策を通じて、経済発展と世界的な環境問題の解消について、多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①北アメリカ州及びアメリカ合衆国の学習を俯瞰しアメリカ合衆国が世界に及ぼしている影響について主体的に追究しようとしている。

表2 各時の学習活動の具体の評価規準のA・Bの評価と「努力を要する」状況(C)と評価される生徒への指導の手立て

時	B	A	「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への指導の手立て
1	(知・技①) 評価方法(小テスト)		
	北アメリカ州の地形や気候など自然環境、アメリカ合衆国の移民の歴史や民族構成についておおむね理解している。	北アメリカ州の地形や気候など自然環境、アメリカ合衆国の移民の歴史や民族構成について十分に理解している。	個別指導や補充プリントの準備を行い、再テストに合格できるよう支援する。
2	(思・判・表①) 評価方法(ワークシートの記述)		
	アメリカ合衆国の移民に対する考えを通じて、アメリカ合衆国に不法入国する移民の受け入れについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	アメリカ合衆国の移民に対する考えを通じて、アメリカ合衆国に不法入国する移民の受け入れについて、多面的・多角的に発展的な考察を行い、表現している。	意見形成が難しい生徒には、考える視点を与える。他の生徒の意見を参考に促す。
3	(知・技②) 評価方法(小テスト)		
	アメリカ合衆国の農業と工業について、おおむね理解している。	アメリカ合衆国の農業と工業について、十分に理解している。	個別指導や補充プリントの準備を行い、再テストに合格できるよう支援する。

4	(知・技③) 評価方法 (小テスト) (思・判・表②) 評価方法 (ワークシートの記述)		
	(知・技) アメリカ合衆国の文化、経済と環境問題の関係について、おおむね理解している。 (思・判・表) アメリカ合衆国のパリ協定に対する政策を通じて経済発展と世界的な環境問題の解消について、多面的・多角的に考察し、表現している。	(知・技) アメリカ合衆国の文化、経済と環境問題の関係について、十分に理解している。 (思・判・表) アメリカ合衆国のパリ協定に対する政策を通じて経済発展と世界的な環境問題の解消について、多面的・多角的に発展的な考察を行い、表現している。	(知・技) 個別指導や補充プリントの準備を行い、再テストに合格できるよう支援する。 (思・判・表) 意見形成が難しい生徒には、考える視点を与える。他の生徒の意見を参考にするよう促す。
5	(態①) 評価方法 (振り返り・ウェビングマップの作成)		
	北アメリカ州及びアメリカ合衆国の学習を俯瞰しアメリカ合衆国が世界に及ぼしている影響について粘り強く追究しようとしている。	北アメリカ州及びアメリカ合衆国の学習を俯瞰しアメリカ合衆国が世界に及ぼしている影響について自己調整しながら追究しようとしている。	既習事項を確認させるなどして、生徒がキーワードをまとめやすくなるよう促す。

表3 単元の指導計画 <全5時間> (○評定に用いる評価 ●学習改善につなげる評価)

次	時	問い・学習活動等	研究の視点に関する留意点	評価の観点・教師の支援
1	1	単元を通した問い:「アメリカ合衆国は世界にどのような影響力を持っているだろうか」	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを活用しながら、各自で学習を進め、知識・技能を習得する。 関心や自分のペースに応じて、補充的な学習に取り組むなど自己調整しながら学習する。生徒同士で協力して学習を進めても良い。 	(●知・技) <ul style="list-style-type: none"> ガイダンスで単元全体の概略を説明し、生徒が単元の見通しをもてるようにする。 導入時に電子黒板で、アメリカ合衆国の動画 (NHK for School) を視聴させる。 ※本時内容の小テストは第3時に実施。
		北アメリカ州の地形や気候など自然環境に加え、アメリカ合衆国の移民の歴史や民族構成など次時の授業についての知識・技能を、個別学習主体の授業形態で学習する。		
2	2	アメリカ合衆国の不法入国する移民を巡る社会の現状について学び、資料を基にアメリカ合衆国の不法移民への対応について話し合いながら、各自の最適解を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に各自の考えを整理し、探究課題についてクラスメイトと考え発表し合い、振り返ることで協力的な学習を充実させる。 	(○知・技) <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の習得が十分でない場合は、再テストを実施する。 学習課題を明確に示し、Google ClassroomにNHK for Schoolの動画リンクを貼るなどして、生徒が自由に動画を視聴できるようにしておくなど学習環境を整える。 ※本時内容の小テストは第4時に実施。
2	3	アメリカ合衆国の農業について各地の気候 (降水量等) に応じた適地適作で農業が行われていることなど、個別学習主体の授業形態で学習する。	<ul style="list-style-type: none"> 第1時の内容について小テストに取り組み、学習内容の習得状況を確認する。 ワークシートを活用しながら、各自で学習を進め知識・技能を習得する。その際、各自でICTを活用し、動画の視聴、情報収集を行う。 関心や自分のペースに応じて、補充的な学習や、個別に探究する学習に取り組むなど自己調整しながら学習する。協力して学習を進めても良い。 	
		アメリカ合衆国の工業と、アメリカ合衆国が経済大国として世界に大きな影響力を持つことについて個別学習主体の授業形態で学習する。		
2	4	アメリカ合衆国の文化や世界への影響力、経済と環境問題の関係について学び、トランプ氏のパリ協定に対する政策について考え、経済発展と世界的な環境問題の解消について、個別に探究し、最適解を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> 第3時の内容について小テストに取り組み、学習内容の習得状況を確認する。 ワークシートを活用しながら、各自で学習を進め知識・技能を習得する。 各自でICTを活用し、動画を視聴するなどして情報を集める。集めた意見を基に自分の意見を表現する。 	(○知・判・表) <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の習得が十分でない場合は、再テストを実施する。 学習課題を明確に示し、Google ClassroomにNHK for Schoolの動画リンクを貼るなどして、生徒が自由に動画を視聴できるようにしておくなど学習環境を整える。 思考の深まりを促す必要がある場合は、補助発問を行う。 ※本時内容の小テストは第5時に実施。

3	5	単元を通じた問いや単元の学習で学んだことを基に、北アメリカ州及びアメリカ合衆国についてのウェビングマップを作成することで、単元のまとめ・振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・第4時の内容について小テストに取り組み、学習内容の習得状況を確認する。 ・学習した内容を基に Google スライドでウェビングマップを共同で作成し、本単元の学習内容を整理する。 	(○知・技) (○態) <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の習得が十分でない場合は、再テストを実施する。 ・Google Classroom にウェビングマップの見本や課題、これまで視聴した動画のリンクを貼るなどして、学習環境を整える。 ・教科書、本単元で各自が完成させたワークシートや小テストを参考に促す。
---	---	--	---	---

3 所属校における提案授業について

提案授業は、第1学年の2人学級において、「地理的分野 B 世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域④北アメリカ」(帝国書院)を題材とし、全5時間で実施した。

第1時は単元のガイダンス的な位置づけとなるため、単元を通じた学習の概要を説明し、生徒に見通しをもたせた。第1, 3時は知識及び技能の習得を図る授業、第2時は授業者が提示した課題について生徒同士で意見を出し合う探究の授業、第4時は知識及び技能の習得に加え、課題探究に取り組み、生徒が各自で課題を探究する授業、第5時は、単元全体の振り返りとまとめとして位置づけた(表4)。また、学習内容の習得状況を確認するために第3, 4, 5時の開始後すぐに小テストを実施した。

表4 単元の授業の構造 (矢印は学習内容の関連など授業のつながりを表す。)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度	学習のテーマ・問い
第1時	個別での習得			北アメリカ州の自然環境・アメリカ合衆国の移民の歴史と民族構成
第2時	個別での習得	協働での探究		「アメリカ合衆国は不法に入国する移民を受け入れるべきか」
第3時 (第1時の学習内容の小テスト)	個別での習得			アメリカ合衆国の農業・工業
第4時 (第3時の学習内容の小テスト)	個別での習得	個別での探究 (個別での発展的な学習)		「アメリカ合衆国のパリ協定に対する政策から、経済発展と環境問題の解消について考える」
第5時 (第4時の学習内容の小テスト)			協働での振り返り・まとめ	北アメリカ州及びアメリカ合衆国についてのウェビングマップ作成

第1時はまず、単元を通じた学習の概要を説明し、生徒に学習の見通しをもたせた。その後は北アメリカ州の自然環境とアメリカ合衆国の移民の歴史と多様な民族構成について、ワークシートを用いて生徒各自で個別学習に取り組み、知識及び技能の習得を目指した。

教師は必要最小限の説明や指示を行うとともに、生徒に対して一人で学習に取り組んでも必要に応じてクラスメイトと協力しながら学習を進めても良いことや、答えを確認しながら学習を進めても良いことを伝えた。課題が早く終わった生徒のために、同じワークシートを何枚も印刷しておき、自由に補充的な学習に取り組めるようにしておくなど、生徒が確実に知識及び技能を習得できるようにした。

第2時の授業は、授業者が提示した課題について考え探究する授業として位置づけた。提案授業の実施時はアメリカ合衆国の大統領選挙が行われており、不法入国する移民の問題は世間の関心も高く、「アメリカ合衆国は不法に入国する移民を受け入れるべきか」という問いを設定した。学級の人数が少ないため、生徒が多様な意見や考え等を参考にできるように、複数の立場から意見を述べた資料や、移民の人数の推移や割合を示すグラフ、不法入国する移民の現状が分かる動画を用意した。生徒はこれらを参考にし、各自で考え、その後互いの意見を発表し合い、振り返りを行う中で問いに対する最終的な意見形成を行った。

第3時の授業では、開始時に第1時の内容の小テストを実施した。その後、第1時と同じような形で、アメリカ合衆国の農業と工業について個別に学習を進めた。また、Google Classroom を活用し、配付したリンクから自由に動画を視聴したり、インターネットで興味のあることを調べたりできるようにするなど、各自で学習を調整できるよう環境整備を行った。

第4時の授業では、開始時に第3時の内容の小テストを実施した後、アメリカ合衆国の生産と消費の問題について、個別に学習を進めた。この学習を土台に、生徒が各自で「トランプ氏のパリ協定に対する政策をどう思うか」という問いについて考えた。また、事前に Google Classroom を活用して参考にする動画を提供するなど、本時では各自で学習を調整できる環境整備に努めた。

第5時の授業では、開始時に第4時の内容の小テストを実施した後、これまで学習したことを基に、単元を通した問いについて考えるなどして、北アメリカ州及び、アメリカ合衆国についてのウェビングマップを作成した。教科書や本単元で各自が完成させたワークシート、小テスト等を参考に、Google スライドを用い電子黒板で画面共有しながら共同編集を行った。

4 成果と課題

(1) 成果と課題について

知識及び技能の習得においては、学習進度や到達度に応じて補充的な学習に取り組むことができるワークシート、資料や動画を提供し、生徒が自ら学習を調整できるようにするなど「指導の個別化」の手立ての充実を図った。その結果、生徒は自身の学習を調整するとともに、効率良く学習を進めることができた。また、確実な知識・技能の習得のために小テストを実施し、生徒は基準を満たすことができた。

生徒が課題を探究する授業においては、習得した知識及び技能や ICT を活用して収集した情報を基に、多様な考え方があつた課題について自分の考えを整理していった。第2時では、生徒同士で意見を発表し合い、クラスメイトの発表内容について考察し、自分の意見についての根拠等を再確認することで、自分の意見をより深めることができていた。クラスメイトの意見から、新たな視点や考えを得るなど、1つの課題の探究を通して「協働的な学び」の充実につながつたと考えられる。また、第4時では個別に探究する機会を設け、生徒が各自で既習の知識及び技能に加え、ICT を活用して興味、関心に応じて取組を進めた。第5時では、少人数学級の特性を生かし、協働して単元の振り返りとまとめを行った。このような学習を単元内で計画的に実施することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にもつながるのではないかと考える。

しかし、単元終末のウェビングマップにまとめる学習では、キーワードを挙げてウェビングマップを作成する活動が目的のようになってしまった。ウェビングマップ作成の意図を、明確に生徒に伝えることができれば、もっと学びを深めることができたのではないかと考える。例えば、本時は学習のまとめであることを伝える。その上でブレインストーミングを行い、より多くのキーワードを生徒から出させた後で、それぞれのキーワードを理由をつけながらつなげる。そして、完成したウェビングマップを俯瞰しながら単元を通した問いについて考えさせるなどの取組が必要だつたのではないかと考える。生徒の学び

が深まる単元末のまとめ・振り返りの方法についても、さらに研究していきたい。

様々な反省点、改善点はあるものの、提案授業後の生徒の声からは「自分にとって効果的な学習の方法が分かった」、「学習意欲が高まった」、「クラスメイトの考えを聞いて自分の考えが深まった」などの意見が聞かれた。

提案授業の前後に8つの項目について5件法で実施したアンケート(表5)では、「意欲的に学習に取り組むことはできますか」、「自分に合った学習の仕方を知っていますか」、「目標や見通しをもって学習を進めることはできますか」など、ほとんどの項目で数値の上昇が見られた。

(2) 今後に向けて

生徒が自ら学びに向かう環境を作るためには、生徒の発言を大切に授業を展開することや、生徒の発言やできたことを褒める機会を増やすことが重要である。今後も、生徒が主体となって、安心して取り組むことができる授業づくりを心掛ける。教材研究、教材開発や評価については、今回の実践では不十分であった。これは今後取り組んでいかなければならない大きな課題であると考え、これらを踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、生徒が自ら学びに向かう社会科の授業づくりの実現に向け、今後も一層研究を進め、授業改善に取り組んでいく。現代の先行きが不透明で変化の激しい時代においても、生徒自らが探究課題を見出し、学び続ける力を付けることで、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となれる資質・能力を育むことができるよう、研究に努めたい。

表5 提案授業の前後に実施したアンケートの項目

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 意欲的に学習に取り組むことはできますか。● 自分に合った学習の仕方を知っていますか。● 学習したことや自分の考えを、文章で表現することは得意ですか。● 自分の考えや意見を伝え、誰かと協力して学習に取り組むことはできますか。● 目標や見通しをもって学習を進めることはできますか。● 課題解決に取り組むとき、どのような情報を集めれば良いかわかりますか。● 集めた情報を分類したり、関連付けたりしながら学習を進めることはできますか。● 学習したことを振り返り、次の学習に生かすことはできますか。 |
|---|

(できる、ややできる、どちらでもない、ややできない、できない)の5件法でアンケートを実施

<引用文献>

- ※1 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』 p.1 (2021)
- ※2 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』 p.17 (2021)
- ※3 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』 p.18 (2021)
- ※4 中央教育審議会『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』 p.19 (2021)

<参考文献>

- ・奈須正裕、伏木久始『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して』北大路書房 p.54 (2023)
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社(2020)
- ・文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社(2018)